

令和3年度西区実施プラン 期末報告

令和4年（2022年）3月 札幌市西区

西区では、毎年度「西区実施プラン」を策定し、区の使命と区運営の目標・基本方針を定め、それに沿って計画した各重点取組項目について、検証しながら進めてきました。

その結果、令和3年度の実施結果の概要は、次のとおりとなりましたのでご報告いたします。

令和4年度以降も、区民の皆様と連携しながら、区民が主役のまちづくりを進めてまいります。

令和4年（2022年）3月31日

西区長 梅田 岳

I 西区実施プランの全体

◇ 西区の使命

区民誰もが健康で安心して生き生きと暮らすことができるように、地域の主体的なまちづくり活動を支援し、区民の皆さまとともに新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新しい生活様式などの環境変化も踏まえた西区のまちづくりを進めてまいります。

◇ 西区の運営方針

西区は、札幌市まちづくり戦略ビジョンに基づく防災・環境・文化芸術の各事業を中心に行うとともに、次の3つの方針でまちづくりや区役所の運営を進めます。

- ◆ 誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり
- ◆ 地域の豊かな自然環境や文化芸術を生かしたまちづくり
- ◆ 市民感覚を大切にしながら地域とともに進めるまちづくり

- ・ 各部の目標
- ・ 運営方針実現のための取組

Ⅱ 運営方針実現のための取組

1 誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり

(1) 地域の防災力強化

「西区防災訓練」では、区職員、学校職員及び地域住民が参加し、避難所受付の設営体験や避難者受付の模擬訓練等を行うとともに、「防災実技研修」では、地域住民が参加し、防災資機材の取扱や応急手当などの実技訓練を行いました。

また、区職員、学校職員及び地域住民の3者で実際に避難所設営を体験する「避難所開設研修」

を行いました。この訓練では、避難所の開設に関する初動対応や基本行動等を確認しました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「避難所開設研修」は19か所の小中学校等で実施予定だったところ7か所について一部訓練の内容を変更して実施し、「災害が起きたときのアクションカード」を使った町内会等による防災訓練の開催支援は、中止しました。



【西区防災訓練(避難者受付の模擬訓練)】

〈数値目標〉

西区防災訓練等の地域住民参加者数 100人 → 166人

(防災実技研修の参加者を含む)

避難所開設研修等の地域住民参加者数 165人 → 173人

(2) 介護予防体操の普及

高齢者が健康で地域で活躍できることを目指し、住民とともに制作した介護予防体操「エコロコ！やまべえ誰でも体操」を、昨年度実施した効果検証結果を活かして、普及員養成講座等の普及活動を行い、高齢者の介護予防を関係機関とともにすすめました。10月には新型コロナウイルス感染症対策の一環として、自宅で運動を行えるよう体操のDVDの無料郵送配布を行い、133人にDVDを送付しました。

また、普及員をすこやか倶楽部に派遣し地域の担い手として活躍できるための機会を確保し、普及員活動研修会を通してコロナ禍においても普及員同士が交流できる機会を設けました。

〈数値目標〉 普及員数 425人(35人増) ⇒ 実績 413人(23人増)

※令和3年3月31日現在 390人



【普及員派遣事業の様子】



【普及員活動研修会の様子】

(3) 地域との協働による健康づくり

健康寿命の延伸を目指し、地域における健康づくり活動の活性化を図るため、健康づくりに取り組む団体・グループの活動支援や地域主催の健康講座への協力など、誰もが参加できる健康づくり事業を協働で行っており、令和3年度は「市民健康教育講座」を1回、新型コロナウイルス感染が拡大する状況での新たな手法としてオンラインにより実施したほか、「地域健康教室」を2回、『健康さっぽろ21の推進に関する包括的連携協定』締結企業との連携により「健康づくり栄養講座」を1回、集合形式により実施しました。

また、健康づくり活動がより多くの区民に広がるよう、乳幼児健診の場を活用し、若い世代に対してがん検診等の啓発を行いました。

(4) だれでも・いつでも・なんどでもノルディックウォーキング事業

働く世代を含む幅広い世代の区民が多様なライフスタイルに合わせ、年間を通してノルディックウォーキングを活用した健康づくりに取り組むことができるよう、ポールの無料貸し出し等を行いました。

令和3年度は、従来の保健センター、農試公園に加え11月より西野まちづくりセンターを新たな拠点とし、ポールの無料貸し出しを行いました。

また、オリンピックを講師として初心者向け講習会と経験者向け講習会を各3回計6回開催しました。

〈数値目標〉 ノルディックウォーキングを実践した人数（令和元年度からの累計）

1,200人 ⇒ 実績 972人/延(※)

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して実施

(5) 認知症の方や家族への支援

認知症の方がいつまでも住み慣れた地域で生活できるよう、「認知症にやさしいまちづくり」に向けて関係機関と協働し、西区が作成したリーフレットやポスターの配布をすることで認知症の普及啓発をすすめました。認知症の方や介護者が孤立しないよう介護者向けの講演会を開催するとともに、孤立しがちな男性介護者向けの広報誌を新たに発行しました。次年度に初めて商業施設で開催するパネル展と相談会に向けて、関係機関と準備をすすめています。

また、西区保健福祉部職員を対象に、認知症についての理解が深められるよう、動画視聴による認知症研修会を実施しました。



【西区ケア友の会（認知症の方を介護する男性介護者の集い）】



【男性介護者向け広報誌】



(6) 障がい者への支援

社会的に孤立している知的障がい者の方を把握するため、福祉サービスを受けていない方を対象に、郵送や訪問により生活状況の調査を実施しました。対象の方には福祉ガイドを送付し、福祉サービスの周知を行いました。また、民生委員への情報提供を希望する方については、情報提供カードを民生委員に提供し、情報共有を図りました。

障がい者やその家族等の暮らしやすい地域づくりを目指し、「自立支援協議会西区地域部会」において福祉サービスを提供する事業者間で支援力向上のための意見交換等を行いました。

(7) 安心して子育てできる地域の環境づくり

新型コロナウイルス感染拡大により地域内での交流が制限されたため、昨年度に引き続き、対面集合型での実施ではなくオンライン形式により、孤立しがちな転入者が不安なく西区で子育てができるよう、「転入者子育て交流会」を7月・8月に計4回開催しました。

また、こそだてインフォメーション「さんかくやまベエのへや」などにおいて、利用者のニーズに添った、子育てに関する情報の提供や相談などを行いました。地域における子育て支援の推進のため、地域が主催する子育てサロンの周知を目的とした動

画を作成し、市民に向けPRを行いました。

支援を必要とする子どもたちに対しては、地域の関係機関のネットワークを生かしながら連携・協働して見守りを行いました。



【子育て交流会(オンライン)の様子】



【子育てサロンの様子(西区HP動画より)】

(8)誰もが楽しめる公園づくり

身近な公園の全面改修を、地域の方々の声を取り入れながら、5公園で進めました。

また、安全安心に公園を利用できるように、老朽化した遊具、ベンチ、外柵などの部分改修を2公園で行いました。



【銀杏公園(整備前)】



【銀杏公園(整備後)】



【遊具改修】

(9)安全・安心な道路の確保

老朽化が進んでいる生活道路について、舗装の更新などの生活道路整備を32路線で実施しました。

また、冬季間の円滑な交通を確保するため、車道516km、歩道261kmの除排雪を実施しました。

さらに、歩行者の通行を妨げないように、地下鉄4駅・JR4駅を中心に、駐輪場及び周囲の自転車の誘導・整理、放置自転車の撤去(R3:586台撤去)等を行いました。



駐輪場



放置自転車

2 地域の豊かな自然環境や文化芸術を生かしたまちづくり

(1) 西区環境まちづくり協議会など地域の人々が主体的に取り組む環境活動を支援

西区の豊かで恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐため、「西区環境まちづくり協議会」や区民・団体・企業など、地域の人々が主体的に取り組む環境活動などを支援しました。

① 西区環境まちづくり協議会に対する支援

西区環境まちづくり協議会の活動に対し、補助金を交付する等の支援を行いました。

<主な活動>

◆「エコキッズ・プログラム」、「親子でエコキッズ・プログラム」、「西区コドモ自然学校」
○「エコキッズ・プログラム」では、小学校や幼稚園・保育園を対象として、五天山公園や琴似発寒川などで、昆虫や植物を観察する自然体験教室や川の生き物を観察する水生生物観察会を実施しました。

・ 16 回開催、延べ 951 人参加

○「親子でエコキッズ・プログラム」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

○西区コドモ自然学校は、夏と秋は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりましたが、冬に、イグルー（雪の家）作りを開催することができました。

・ 1 回開催、10 人参加



西区コドモ自然学校

◆「親子で環境満喫バスツアー」

リサイクルや省エネ啓発を目的としたバスツアーは新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりましたが、身近な自然環境や海洋ごみ問題について学ぶことができるようにツアーの内容を現地で撮影した動画を作成し、西区公式ホームページにアップするとともに、西区内の小学校にも情報提供しました。

◆「西区こども環境広場」

様々な体験やゲームなどを通じて、楽しみながら環境について学ぶ体験型環境イベントを予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、三角山放送局において、海洋ごみ問題に関する専門家の解説や、小学生が環境について調べて発表する授業の様子などを収録し、放送した「ラジオで西区環境広場」のほか、エコライフに関して考えるきっかけとなる様々なものを展示した「eco ライフ展 in 西区環境広場」を開催しました。

② 西区アダプト・プログラム

環境美化に対する市民意識の高揚を図るとともに、市民と行政との協働による環境美化活動を推進するため、企業や学校、商店街などの地域団体と、西区役所が協定を結び、身近な道路や公園といった公共の場所を清掃するなど、継続的にまちの美化活動を行いました。

今年度の新規参加4団体（活動団体数53団体）

(2)地域の文化芸術活動の推進

事前予約不要で鑑賞できる無料の音楽コンサートや子どもを対象とした自宅での芸術作品制作体験を行うなど、区民の方が上質な文化芸術に触れる機会を創出しました。

① コトニジャズ・コトニクラシック

プロの音楽家による本格的な演奏を気軽にお楽しみいただける「コトニジャズ・コトニクラシック」。

令和3年12月には、感染対策を行いながら「コトニクラシック Vol.30」を開催しました。JR 琴似駅直結のイベントスペースを会場に、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌（PMF）の修了生をメインとしたトリオの演奏で、クラシックの名曲や季節に合わせたクリスマスソングをお届けしました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催回数を縮小し1回の開催となりました。

② 西区文化フェスタ

令和3年9月、約2週間にわたり、区内各施設を活用しながらコンサート、ライブ、ダンス、演劇、日舞など様々なジャンルのイベントを開催する「西区文化フェスタ」の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

③ 子ども向けワークショップ

「こども・あーと・にしく」

子どもが楽しみながら芸術に親しむことのできるワークショップは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しましたが参加希望児童に使用予定だった木工細工キットを配布し、完成した作品や制作風景の写真を西区ホームページで公開しました。



↑ コトニクラシック Vol.30



↑ こども・あーと・にしく

3 市民感覚を大切にされた地域とともに進めるまちづくり

(1) 企業連携による西区魅力創出プロジェクト

区内にある食産業やものづくり等の魅力を多くの方が知り、集客交流が促進されるよう、区内の魅力向上に向けた資源の発掘を行い、企業と連携して地元の小学生に魅力を体験してもらう企業見学会を実施しました。

	日時	場所	参加者数	内容
1	令和3年11月20日	JFE条鋼(株)豊平製造所	9人	製鋼工場、圧延工場で鉄スクラップを溶かす様子や鉄鋼製品の製造を見学
2	令和4年1月7日	白い恋人パーク	20人	白い恋人パークで「白い恋人」などの製造ラインを見学
3	令和4年1月12日	白い恋人パーク	20人	
4	令和4年1月14日	(株)協和機械製作所	14人	大型の除雪車、草刈用の特殊作業車などの「はたらく車」の製造を見学
5	※ 5回目は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			

〈数値目標〉 魅力体験の参加者数 80 人 ⇒ 実績 63 人



鉄スクラップを溶かす様子を見学



大型の除雪車を見学

(2)地域の課題解決をサポート

区内に8か所ある「まちづくりセンター」が住民とともに地域の伝統文化などの魅力や町内会活動をはじめとした担い手不足などの課題を踏まえたさまざまな事業を行い、住民自ら地域の課題を解決する“地域力”の向上を目指します。

また、持続可能な町内会活動支援の一環として、『伝えたい情報』を『伝えたい人』へより効果的に情報が発信できるよう SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を利用した情報発信について連合町内会などを対象として、SNS の概要や、町内会活動での活用事例を説明のうえ、運用についての支援を行いました。



SNS についての説明



参加者が操作する様子

八軒まちづくりセンター

地域の力を結集し支え合うまちづくり ー高齢者の見守り・防犯パトロール・防災ー

八軒地区では、八軒連合町内会を中心に、関係団体や事業者などをメンバーとする「八軒まちづくり協議会（八軒サポート隊）」を結成。安全・安心なまちづくり、地域で支え合うまちづくりを進めています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で一部の事業が中止・延期となりましたが、そういった中、青色回転灯装着車による防犯パトロール、高齢者見守り活動の充実に向けたマップ作成会の準備、三角山放送局での情報発信など地域の安全安心を守る活動を行いました。



防犯パトロール車両
(登録車両数：11台)



高齢者見守りマップ(42 町内会)
※作成会は、来年度に延期



三角山放送局に出演する連町会長
(毎週水曜日。年間 47 回実施)

琴似二十四軒まちづくりセンター

リモートワーク推進モデル事業

地下鉄、JR、バスが集積する地域交流拠点「琴似」において、ホテル及びカフェ各 1 か所を舞台にリモートワークの理解促進を図るためのモデル事業を実施しました。

(6/7~6/30：延べ 60 名以上が利用)



町内会活動における ICT 活用の研修会
文書作成や表計算をはじめ、リモート会議やホームページなど ICT を町内会活動に取り入れ、担い手の負担軽減を図るための研修会を開催しました。

▲研修会風景 (12 名参加)

「二十四軒アレコレ探索ガイド」の制作
二十四軒地区の住民が当該地区の歴史を理解し、地域への愛着を深め、地域のまちづくり参加や町内会加入の促進につなげるため、二十四軒地区の開拓 150 年を記念した探索ガイドを制作し、二十四軒小学校などに配布しました (2 月に 1,500 部発行)。



▲ガイド表面

西町まちづくりセンター

「子ども達の夢を応援！！西町・コンサ通りまちづくり事業」

未来を担う子どもたちが地域への愛着をより一層深められるような、活気ある住みよい街を目指した取組を推進しています。

◆北海道コンサドーレ札幌バドミントンチーム選手と児童の交流 (令和 4 年 2 月)

(手稲東小 6 年生、西園小 6 年生、2 校計約 200 名)



選手への質問コーナー
(手稲東小)



記念品（フラッグ）の交換
(西園小)

発寒北まちづくりセンター

発寒北地区防災マップの作成・配布

地域の防災力向上を図るため、地区内の避難所等をお知らせするマップを作成し、全戸に配布しました。発寒北地区を3つの区域に分けて作成・配布しており、令和3年度は、東部（札幌新道以南）のマップが完成しました。

(※北部及び西部は、令和2年度に作成・配布済み。)



発寒北（東部）地区防災マップ（表面）



発寒北（東部）地区防災マップ（裏面）

西野まちづくりセンター

水車のあるまちエコCity 西野

かつて140基の水車が存在し、西野米と呼ばれるお米を生産する広大な水田地帯だった西野地区の歴史を子どもたちに伝えるため「水車で地域交流会」を10月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

代わりに『マンガ 西野の歴史 わたしたちのまち西野』を増版し、西野地区の歴史について学んでもらう教材として、西野小学校、西野第二小学校、平和小学校、福井野小学校の児童約450人に配布しました。



山の手まちづくりセンター

☆三角山で育む“まちづくり心”支援事業

三角山ボランティアが中心となって企画運営する魅力発信・保全・登山マナーの啓発等の活動を通じて、市民が三角山に親しむ事業を支援しました。

健康登山スタンプラリーや写真展のほか地元小学校での総合学習、ボランティア撮影の写真で構成する花ガイドブックの増刷配布を行いました。

※例年実施しておりました「山の手子供すくすく育み隊三角山登山」「ボランティア整備登山」「山の手連町三角山登山と交流会」は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は中止いたしました。



三角山健康登山スタンプラリー
(392名が参加)

三角山写真展（山の手地区文化祭）

発寒まちづくりセンター

地球にやさしいまちづくりの推進事業「エコタウンはっさむ」

ごみの減量・リサイクルなどの環境活動を通じ、次代を担う子供たちとともに地域が一体となって「地球にやさしいまちづくり」に取り組む「エコタウンはっさむ」の活動を継続的に行っています。

公園の落葉を発酵させて堆肥にする「みどりの貯金箱」では、地域の方々が実施する際に発寒南小の児童が参加し落葉拾いと切返し作業を体験しました。春には落葉が堆肥となり、地域の花壇や畑で使われます。

家庭から出る使用済み天ぷら油をリサイクルする活動は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一部が中止となりましたが、発寒児童会館と連携してエコローソク作りを実施しました。



発寒南小の児童が見学した
みどりの貯金箱の切返し作業



発寒児童会館の子ども達と
行ったエコローソク作り

八軒中央まちづくりセンター

八軒中央地区マスコットキャラクター活用事業

次代のまちづくりを担う子どもたちに地域への愛着を深めてもらおうと、地元の小学生の応募作品を基にして令和2年度に誕生した、八軒中央地区のマスコットキャラクター「はっけんくん」。

令和3年度は、はっけんくんに親しんでいただくため、キャラクターの活用事業に取り組みました。はっけんくんをあしらったベストが地域活動の際に着用されたほか、地域のイベントの看板や印刷物などに登場しました。



交通安全の街頭啓発



文化祭作品展



アイスクャンドル冬物語

(3) 緑あふれるまちづくり

道路の植樹ます・植樹帯への花植えによる歩道美化を地域の皆さんと協働で行いました。(23路線の58団体へ約13,700株の花苗を配布)

また、道路景観の向上を目指し、二十四軒手稲通(愛称:ラベンダー通り)のラベンダーによるシンボルロードづくりを地域と協力して進めました。



二十四軒手稲通(ラベンダー通り)



花苗植栽による歩道美化

(4)冬の暮らしに親しむ雪体験授業の実施

将来のまちづくりを担う子どもたちが、冬の暮らしに関心を持ち、札幌の雪対策に対する理解が深まるよう、小学生を対象とした雪体験授業を18校で行いました。

〈数値目標〉 西区内の全ての小学校20校⇒ 実績 18校



雪体験授業（出前授業）



雪体験授業（体験学習）

(5)区内のまちづくり活動の情報発信

活動の担い手の発掘や参加の促進につなげるため、町内会をはじめとするさまざまなまちづくり活動を、広報さっぽろの表紙（写真27枚）や西区ホームページ（42件）で広く紹介しました。

また、広報さっぽろの企画として「今月のやまベフレンズ」（12回）を連載し、西区役所1階ロビーのデジタルサイネージ（電子看板）に「西区ニュース」（29件）を定期的に配信しました。



やまベフレンズ



デジタルサイネージに表示した西区ニュース

(6)選挙啓発活動の推進

① せんきょ体験授業

将来の有権者である子どもたちに選挙の大切さを学び、選挙を身近に感じてもらうため、区内の小学校8校で選挙に関する講義や模擬投票を行う「せんきょ体験授業」を開催しました（参加者数：564名）。

② 西区明るい選挙啓発書道作品展

将来の有権者である子どもたちに政治や選挙への関心を高めてもらうため、区内の小学校に通う4年生から6年生を対象に書道作品を募集し、応募のあった全作品1,066点を地下鉄琴似駅構内に展示するとともに、入賞作品18点を西区役所1階ロビーのデジタルサイネージで放映しました。



【せんきょ体験授業での模擬投票の様子】



【作品展（入賞作品放映）の様子】

(7)窓口混雑緩和の取組の実施

春の引っ越しシーズンの混雑が著しい戸籍住民課窓口において、待ち時間を短縮し、混雑緩和を図ることを目的に1階ロビーに案内係（コンシェルジュ）職員を配置し、庁舎内案内とともに、窓口受付前の事前説明（必要書類等）を行いました。

また、届出書類への記入の支援等を行うことで、受付に要する時間を短縮し、スムーズに手続きが済ませられるよう、来庁者へのサポートを実施しました。

(8)マイナンバーカードの普及促進

マイナンバーカードの普及促進を積極的に進めていくため、戸籍住民課窓口において、次のような西区独自の取組を行うなどにより、多くの区民がカードの速やかな申請とスムーズな受け取りを行えるように環境を整備しました。

① カードの申請サポート臨時窓口を区役所ロビーに設置し、区民の申請手続きへの説明・受付等を行いました。

② カードの受け取り日時を西区ホームページから予約できるオンライン予約制の実施により、短い待ち時間でスムーズにカードの受け取りができるようにしました。

また、8月からは電話での予約も可能としたほか、土日や平日夜間でも受取可能な札幌市マイナンバーカードセンターがオープンしたことから、積極的に利用を案内しました。